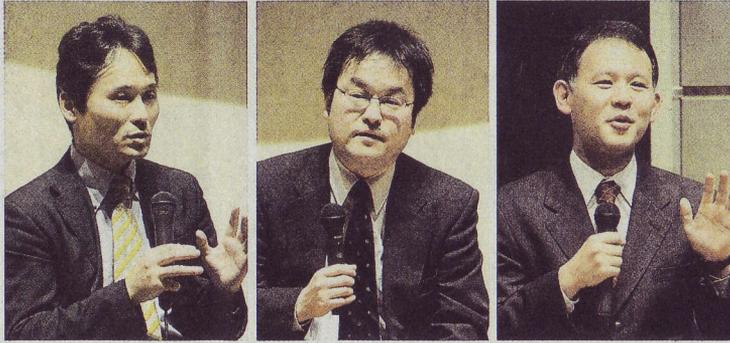


思考の フィールドノート

希望と社会との関係を考
える「希望学」を二〇〇五
年から進めてきた東大社会
科学研究所が四年間の研究
を終えた。その成果とは何

挫折の後に

「失われた十年」からの
経済の停滞、少子高齢化、
不安定な雇用などを背景に
「希望の喪失」が近年、言
論空間で大きなテーマとな
った。現実の困難な問題に



東京都内で開かれた希望学報告会で話す(左から)中村尚史東大准教授、玄田有史同教授、宇野重規同准教授

理論と調査 今月から全4巻刊行

4年間の研究成果をまとめた全4巻の「希望学」(東大社会科学研究所編、東京大学出版会)が4月以降、毎月1巻ずつ刊行される。第1、4巻は理論探究編。法社会学、社会思想、文化人類学など国内外の研究者が寄稿。第2、3巻は岩手県釜石市の高校同窓会の調査などを含め、地域調査から得られた知見をまとめた。玄田有史東大教授は「長く読み続けられ、希望について考えるきっかけになる本になればうれしい」と話している。

東大社研の「希望学」

答えるために、既存の学問の枠組みを超え、日米豪の経済学、政治学、歴史学、文化人類学などさまざまな分野の研究者が参加。岩手県釜石市での地域調査と理論研究の二本柱で、国際的学際的に「希望」を考察した。東京都内で開かれた希望学の報告会。二度の大津波

戦争中の艦砲射撃、製鉄所の高炉休止など多くの試験を経験した釜石での調査を振り返り、玄田有史教授(労働経済学)は「さまざまな困難にひるまずに立ち向かっていく人たちが出会い、さわやかさと潔さを感じた。挫折の後に本当の希望がある」と話した。

一方、情報技術(IT)関連の会社で社員が辞める理由として「先が見えないから」「先が見えてしまったから」という二つがあったという。このエピソード

対話と模索 再生の鍵／過去を知り未来語る



「希望学」の第1巻「希望を語る」

から「先が見えなくても一筋でも光が見えている。先が見えてしまったと思えても、見えていないものがある。こつこつ矛盾に満ちた状態に希望はある」と指摘。「希望が持てない人には、孤独な人が多い。孤立化が大きな問題となっている」「時間という資源を多く持つ若い人は希望を持ちやすい」と述べた。

「ムタなことをするのはよいとわれない人の方が希望を持ちやすい。希望には、ゆとりや遊びを許容することが大切」と玄田教授。さらに「Hope is a wish for something to come true by action」(希望とは、行動によって具体的な何かが実現するという強い願い)という定義を、身ぶりを交えて紹介した。

重要な時間軸

中村尚史准教授(日本経済史)は、地域が希望を持つ要件として①地域らしさ(ローカルアイデンティティ)を確認する②将来構

想を共有する③地域の内外、地域の中でのネットワークをつくるの三点を挙げた。地域を再生させる鍵は「対話にある」とし、「何度も話を聞くうちに元気になる高齢者がいた。話すことには癒やし効果がある」と経験を語った。

宇野重規准教授(政治思想史)は「時間軸」の重要性を指摘。「希望は未来だけを見ていても出てこない。過去を見つめない限り、未来は語れない。過去を知ることが、今の自分を確信し、未来を考えることにつながる」と提起する。

だが「個人が希望を持つのはいいが、ある希望のイメージを権力が押しつけて社会をまとめようとすると、きは、注意した方がいい」と警告した。

玄田教授は言う。「安心は結果を求めるが、希望は模索を求める。希望を考えることの大切さを共有する人たちと対話し、模索し続けることに希望がある。だから希望は終わらない」(共同通信・関矢充人)

思考のフィールド

希望と社会との関係を考える「希望学」を二〇〇五年から進めてきた東大社会科学研究所が四年間の研究を終えた。その成果とは何か。

「失われた十年」からの経済の停滞、少子高齢化、不安定な雇用などを背景に「希望の喪失」が近年、言論空間で大きなテーマとなった。現実の困難な問題に答えるために、既存の学問の枠組みを超え、日米豪の経済学、政治学、歴史学、文化人類学などさまざまな分野の研究者が参加。釜石市での地域調査と理論研究の二本柱で、国際的、学際的に「希望」を考察した。

●挫折の後にこそ

東京都内で開かれた希望学の報告会。二度の大津波、戦争中の艦砲射撃、製鉄所の高炉休止など多くの試験を経験した釜石での調査を

釜石で調査「希望学」

振り返り、玄田有史教授(労働経済学)は「さまざまな困難にひるまずに立ち向かっていく人たちと出会い、さわやかさと潔さを感じた。挫折の後に本当の希望がある」と話した。

一方、情報技術(IT)関連の会社で社員が辞める理由として「先が見えないから」「先が見えてしまったら」という二つがあったという。このエピソードから「先が見えなくても一筋でも光が見えている。先が見えてしまったと思えても、見えていないものがある。こういう矛盾に満ちた状態に希望はある」と指摘。

「希望が持てない人には、孤独な人が多い。孤立化が大きな問題となっている」「時間という資源を多く持つ若い人は希望を持ちやすい」と述べた。「ムダなことをするのは、いとわれない人の方が希望を持ちやすい。希望には、ゆ

対話から地域再生

過去見つめ未来語る

いとわれない人の方が希望を持ちやすい。希望には、ゆ外、地域の中でのネットワーク



東京都内で開かれた希望学報告会で話す(左から)中村尚史東大准教授、玄田有史同教授、宇野重規同准教授



「希望学」の第1巻「希望を語る」

とりや遊びを許容すること「が大切」と玄田教授。さらに「Hope is a wish for something to come true by action」(希望とは、行動によって具体的な何かが実現するという強い願い)という定義を、身ぶりを交えて紹介した。

●時間軸の重要性
中村尚史准教授(日本経済史)は、地域が希望を持つ要件として①地域らしさ(ローカルアイデンティティ)を確認する②将来構

想を共有する③地域の内外、地域の中でのネットワーク

「個人が希望を持つのはいいが、ある希望のイメージを権力が押しつけて社会をまとめようとするときは、注意した方がいい」と警告した。
玄田教授は言う。「安心

4年間の研究成果をまとめた全4巻の「希望学」(東大社会科学研究所編、東京大学出版会)が4月以降、毎月1巻ずつ刊行される。

理論と調査を4巻で刊行

第1、4巻は理論探究編。法社会学、社会思想、文化人類学など国内外の研究者が寄稿。第2、3巻は釜石市の高校同窓会の調査などを含め、地域調査から得られた知見をまとめられた。

玄田有史東大教授は「長く読み続けられ、希望について考えるきっかけになる本になればうれしい」と話している。

は結果を求めるが、希望は模索を求める。希望を考えることの大切さを共有する人たちと対話し、模索し続けることに希望がある。だから希望は終わらない(金曜日に掲載します)